

御神名奉唱のすすめ

あまてらすおおみかみ
天照大御神は、至清至明、至仁至愛、至善至美、一切万類の生命の親神
であらせられ、天乃御中主大神が最高の表現をおとりになった至高至貴
の大御神であらせられます。

このゆえに大御神と申し上げるのは天照大御神に限ることです。

もとの官国弊社に天乃御中主大神をお祭り申し上げたところなく、
宮中三殿の中の神殿にも御神名を明記してお祭り申し上げてないの
は、天照大御神がただちに天乃御中主大神であらせられるからであります。

天照大御神は、気化の神であらせられるとともに胎化の神であらせられ、
そこに神と人とのつながりがあり、神秘がありますので、わが皇室の祖神で
あり、日本民族の祖神であらせられ、同時に宇宙造化の大元霊神であらせ
られるところに、言語に絶えた尊厳を拝するのであります。

私どもも、この大御神の御分霊（直霊とも天照霊とも申します）を頭脳
にいただいておりますので、人間の尊厳性はここにあるのであります。

御神名奉唱が「内なる神」に呼びかけることになるのは、このところ
であります。またいかなる神もみな天照大御神の御顕現にましますのです
から、いかなる神の御前にでも御神名を奉唱して御感應を拝すること
あります。祖霊（祖先の御霊）たちの前で奉唱して、深きよるこびと慰
めをお与えすることができるようのも、このわけであります。

そこで私^{わたし}たちの家庭^{かてい}におまつりしてある神棚^{かみだな}の前^{まえ}でも、八幡宮^{はちまんぐう}や天満宮^{てんまんぐう}や、その他^たどのどの神社^{じんじや}の前^{まえ}でも、御祭神^{ごさいじん}が何神様^{なにがみさま}であっても、すべて神様^{かみさま}を拜む時^{おがとき}の唱え言葉^{となことば}は天照大御神^{あまてらすおおみかみ}とお唱えすることが正^{ただ}しい神拜^{しんばい}の言葉^{ことば}であり、また作法^{さほう}であります。五回^{ごかい}でも十回^{じゅっかい}でも二十回^{にじゅっかい}でも百回^{ひゃっかい}でもこの御神名^{ごしんめい}をお唱えすることあります。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
アマテラスオオミカミ^{とこと}で十言^{とこと}であります。我が国^{わくに}は昔^{むかし}から言霊^{ことたま}の助^{たす}くる国^{くに}とか、言霊^{ことたま}の幸^{さきは}う国^{くに}とか申^{もう}しておりますが、この十言^{とこと}よりも尊^{とんと}き言霊^{ことたま}、高^{たか}き言霊^{ことたま}はありませんので、これは御神名^{ごしんめい}であると同時に御神徳^{ごしんとく}そのままにましますので、広^{ひろ}大無辺^{だいまへん}のものでございませう。天照大御神^{あまてらすおおみかみ}の御神名^{ごしんめい}は数々^{かずかず}伝えられておりますが、この十言^{とこと}の御神名^{ごしんめい}が一般^{いっぱん}にゆきわたっており、いわば御公称^{ごこうしょう}と申^{もう}上げてよろしいかと存^{ぞん}じます。

御神名奉^{ごしんめいほう}唱^{しょう}の際^{さい}には、大御神^{おおみかみ}の目前^{もくぜん}に居^いる気持^{きも}ちでお唱^{とな}えしましょう。

とことのかじり (十言神呪)

あめのおき、つちのおき、

あめのひね、つちのひね、

(「」迄は最初の一のみ唱えます)

あまてらすおおみかみ。

(以上を何回でも何十回でも唱えます)

実際には、あーまーてーらーすーおーおーみーかーみー と適度に伸ばして

発音する方が具合が良いです。

* 声の大きさは、周囲に聞こえて問題が有る場合には、人に聞こえない程度ていどの小さな声こえでも良く、念じるだけでも良く、周囲しゅういに聞こえて問題もんだいが無い場合ばあいには威勢いせいよく声こえを出しても良いのです。

声こえが小さくても心こころを込めて唱えれば良く、声こえの大小だいしょうで神様かみさまへの通じ方かたが変わる訳わけではありません。

* スピードは、実際に唱えてみて適度てきどにリズムカルこころちよに心地かん良く感じるスピードよが良いのです。

* また、拍手はくしゅと拝はいはその時ときの事情じじょうによっては省略しょうりゃくしても可かです。